

保護者の皆様

平成31年度（令和元年度）「全国学力・学習状況調査」の結果について

千早赤阪村立千早小吹台小学校
校長 當麻 裕彦

6年生を対象として、今年度4月に実施しました標記の調査結果と課題、改善点について報告いたします。

本校は、参加する人数が少なく、個々の結果も全体の集計に大きく反映されるため、全体傾向を分析しにくい特徴があります。また、調査結果は、子供たちが身につけるべき学力の一部分であり、これによって子供たちの学力の全てを評価できるものではありません。ですが、この結果分析を通して、成果と課題を把握検証し、更なる子供の学力向上、授業改善に取り組んでいきますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

○調査の対象

小学校6年

○調査の内容

- ・国語、算数…前学年までの指導内容や、実生活で活用できる知識・技能、課題解決のために実践できる力等に関わる内容
- ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

国語について

優れているところ

- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む。
- 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする。

課題のあるところ

- △**図表やグラフ**などを用いた目的を捉える。
- △**情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方**の工夫を捉える。
- △**目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。**



全体として大阪府や全国平均をやや下回りました。

「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域は、大阪府・全国平均を上回っておりましたが、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域が、大阪府・全国平均を下回りました。

特に「書くこと」に関する選択式問題や記述式問題の正答率が下回りました。

日ごろから、文の組み立てや主語述語を意識しながら書くことを、授業で取り入れています。それに加え、目的や意図に応じて、自分の考えを明確にし、まとめて書く活動を進めていくことが必要と考えます。また、国語の授業に限らず、各教科で、授業のふり返りを記述する際などに、新しく学んだ用語を使い、指定された字数で簡潔に書くなど、文章の内容を頭の中で構成して書く経験を増やすことが効果的と考えます。

今後の課題として、読書などを通して既習の語句や慣用句に更に親しむこと、またそれらを日常生活の中で使えるようになっていくことが挙げられます。

算数について

優れているところ

- 示された場面において複数の数量から必要な数量を選び、立式する。
- 棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る。
- 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする。
- 示された除法の意味を理解している。
- 目的に適した、伴って変わる二つの数量を見いだす。

課題のあるところ

- △**図形の構成要素**に着目し、ほかの図形を構成する。



全体として大阪府・全国平均を上回りました。

「数と計算」「量と測定」「数量関係」の領域は、大阪府・全国平均を上回っていましたが、「図形」領域のみ、大阪府・全国平均を下回りました。

記述式や短答式など、解答を記述する問題も、大阪府・全国に比べ積極的に回答しています。

特に「棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる」や「目的に適した、伴って変わる二つの数量を見いだすことができる」問題は、全員が正しく回答できていました。

しかし「示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる」や「示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる」を問われる問題など、事象を明らかにして記述する問題は課題が見られました。

今後の課題として、立式した数字が何を意味しているかを確認したり考えさせたりする活動や、算数用語を用いて簡潔に説明する学習活動を設定することが考えられます。



今後の授業改善の取り組み

- ・学校全体で学力学習状況調査の結果を共有し、「学力向上・研修部」を中心に指導の充実や授業改善を図っていきます。
- ・すべての子供が学びやすい、ユニバーサルデザインの観点を取り入れた「授業づくり」をより一層推進します。
- ・授業の質の向上として、全ての学年で授業スタンダード（「めあて」を明確にし、児童が「自分の考え」を持ち、「まとめ」と「振り返り」を大切にしたい授業づくり）を大事にし、自学自習ノートと、普段のノートの指導を充実していきます。
- ・理解を助けるためのヒントカードを使う、言葉では分かりにくい子供には視覚による支援をするなど、一人ひとりの発達段階に応じた学習を進めます。
- ・学習したことを生かしながら、人に伝えたり、言葉や式などで表したりする力をつけるための学習展開の工夫をしていきます。

学習状況アンケートについて

- ・「自分にはよいところがあると思いますか」の質問で「あてはまる」「どちらかというあてはまる」を選択した児童の割合が9割を越え、自己肯定感が高いことが分かります。これは、家庭力を柱に、学校と地域が密接に連携できていることが大きいと考えております。これからも児童一人ひとりを大切に、よいところは褒め、悪いところは叱ることを継続しながら児童を育成したいと考えています。
- ・全員の児童が「朝食を毎日食べていますか」の質問に「している（食べている）」「どちらかといえばしている（食べている）」の肯定的な回答を選択しましたが、「毎日同じぐらいの時刻に寝ていますか」「毎日同じぐらいの時刻に起きていますか」の質問では、それぞれに数名が「あまりしていない」「全くしていない」（不規則な就寝・起床）を選択回答しました。食事（栄養）と睡眠が安定することは、児童の心身の成長や学習意欲に大きな影響をもたらすものであると考えられます。ご家庭のご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。
- ・「学校のきまりを守っていますか」「人が困っているときは、進んで助けますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の3つの質問には「当てはまる」「どちらかといえば、あてまはる」の肯定的な回答を、全員の児童が選択しました。正しい価値判断を持ち合わせていることが伺われます。しかし「将来の夢や目標を持っていますか」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」の質問への肯定的な回答は、大阪府・全国平均と比較すると、少し低い結果でした。自己肯定感があり、正しい価値判断を持ち合わせた児童が、将来、夢や自信をもって生活できるような学習や取り組みを、学校生活の様々な場面で計画的に進めていきます。

終わりに

学校では、授業研究や公開授業、大学教授等を招聘しての指導力向上研修、大阪府教育センター等での研修、各種研究発表大会への参加などを通して授業力を高め、児童の思考力、判断力、表現力を高めるよう授業改善に取り組んでおります。ご家庭でも学習に集中できるよう、生活リズムを整え、認め、励まし、対話のある温かい家庭環境づくりに努めていただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

